

令和7年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 ICTの効果的な活用や様々な学習形態を工夫することで、主体的・対話的で深い学びを実現し、論理的思考力、批判的思考力及び課題発見・解決能力を育成する。	① ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションを積極的に活用し、効果的な使い方を研究し、授業改善を実践する。 ② グループワークやペアワークなどの授業形態を積極的に取り入れ、生徒の対話の場面を設定し、教師による講義中心型の授業からの脱却を図る。 ③ 授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を積極的に設けることで、論理的思考力や批判的思考力を育成する。	教務課 各教科	年間を通して、授業等のさまざまな場面において、生徒・教員ともICT機器によるGoogleClassroom、ロイロノート等のアプリケーションの活用が増え、学習効果が高まっている。今後は、さらに有効なICT機器の活用を模索し、活用の幅を広げ、生徒の学力向上につなげたい。 グループワークやペアワーク等の授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面を設定している割合が大幅に増加している。今後は、教師同士の情報交換の場を増やし、グループワークやペアワークの有効な実施方法を検討し、効果的な授業のあり方についてさらに研究、実践していきたい。 生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を設定した割合が、さらに増加しているが、最高評価である「よく当てはまる」の割合が減少しているため、生徒への問い合わせの工夫と生徒自身の知識の獲得を促すことにより、論理的思考力や批判的思考力をさらなる育成につなげていきたい。	【満足度指標】(生徒) ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用により、学習効果が高まった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【努力指標】(教員) グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面を多くし、教師による講義中心型の授業からの脱却を図ることができた。	ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用により、学習効果が高まった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 日々の授業において、グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 日々の授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

2	個別面談の充実、探究活動を主とする学習活動、さらにはデジタル・理数分野への理解を深める教育活動を積極的に行い、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期から進路調べやキャリア教育を積極的に行うことで、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	①	きめ細かな個人面談、進路調べ、キャリア教育等を通じ、生徒の進路意識を高め、自ら能動的に進路目標を設定し、進路実現を図ろうとする姿勢を育てる。	進路指導課 学年 教科	数多くの進路行事を体験し、進路について関心の薄かった生徒を含め、全般的に進路選択についての能動的な意識の高まりを導くことができた。担任によるきめ細かな面談や探究活動、DXに関する体験等もこうした傾向に有意に影響したものと考えられる。今後も、さまざまな活動において、進路学習と関連性を持たせ、活用していくことで更に生徒の意識を高めていきたい。	【満足度指標】(生徒) 面談や進路学習、学内外で実施される進路の行事を通して、生徒が広い視野で自己の進路を考え、可能性を広げながら進路選択を行っている。	面談や進路学習、進路の行事を通して、自らの進路選択に関する知識を十分に得ることができた(aよく+bやや)とする生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
			② 探究的な活動を通して、生徒が課題を発見し、解決策を模索することで、自らの興味関心や適性を自覚し、将来社会に貢献できる人材となるよう、取組を工夫する。	探究・DX推進室	昨年度の取組よりも自由度の高いテーマ設定、班編成を行ったが、あまり大きく数値は上昇しなかった。探究に向かう意識の醸成や課題の設定に時間をかけられなかつたことが原因だと考えられるため、1・2年生には、ファシリテーション研修やグループ活動の円滑化による、「問い合わせ」を発するスキルの向上を促し、3年生には、これまでの学びをさらに発展させ、個別探究の深化を促していきたい。	【満足度指標】(生徒) 総合的な探究の時間を始めとする様々な探究的な活動を通して、生徒が課題を発見し、解決策を模索することで、自らの興味関心や適性を自覚し、将来の進路に関してより明確な目標を持つ。	(1・2年生)総合的な探究の時間を始めとする様々な探究的な活動を通して、社会問題により関心が高まり、卒業後の学びたい学問分野・領域等(将来やりたい仕事等)が年度当初に比べ、より明確になった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に生徒アンケートにより評価する。
	③ 探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIに関心を持ち、適切に活用できることを目指し、基礎的な知識やスキルの習得に取り組む。	探究・DX推進室	1年・2年の生徒については、昨年度に引き続き、数理・データサイエンス・AIなどの用語に興味や関心はあるものの有用性や基礎的な知識、スキルが身につきづらい状態にある。一方、3年生はDX出前授業を経験したことによって、こうしたスキルの活用について、その有用性を認識した生徒が増加してきているため、今後もこの取組を継続していきたい。	探究・ DX推進室	【満足度指標】(生徒) 探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIなどを適切に活用できる(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【満足度指標】(生徒) 探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIなどを適切に活用できる(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIなどを適切に活用できる(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	12月に学校評価にて評価する。
			④ 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	面談や進路講演会等により興味・関心、社会への課題意識を持って進路選択することを伝えたことにより、深く考えずに学力相応の進路を選択する生徒の割合は減少し、KUGS特別入試や総合型選抜・学校推薦型選抜に挑戦する取組によって、大学での学びについて深く考える生徒の割合が增加了。今後は、3年次に強い志望を持って進路実現に向き合えるよう、1・2年次からの進路探究をさらに進めていきたい。	【成果指標】(生徒) 3年生:1学期末に生徒が志望した学問分野・領域等と、進学先の学問分野・領域等が一致している。	学問分野・領域等が一致している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
			模擬試験の前後に担任による模試データを用いた面談を行う等の取組を継続し、生徒自身が模試を受験する意義を認識し、目標に向け具体的な行動をとることができるよう、自ら考え、学び、行動していくうちからを高めていきたい。また今年度は、模試のWEB利用を通して、自身の苦手分野に対する振り返り学習の機会を増やす等、個別最適化を意識した課題設定のあり方を模索・実践していきたい。	進路指導課 学年 教科	【成果指標】(生徒) 1・2年生:学力を向上させることができた。 ※総合学力テストの国数英3教科総合の全国偏差値で比較(1年は7月と1月、2年は1年7月と2年1月)	進路を実現するため、学力を向上させることができた生徒の割合が A 65%以上 B 55%以上 C 45%以上 D 45%未満	進路を実現するため、学力を向上させることができた生徒の割合が A 65%以上 B 55%以上 C 45%以上 D 45%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 1月総合学力テストの結果で判断する。

3	教職員はICTを効果的に活用し、生徒の教育活動における個別最適化を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	①	各学年	<p>【1年】 教科では、生徒の現状に合った教材を、学年では「到達度テスト」の結果をもとに個々の学力に応じて配信される課題を提供している。また、スタディサプリEnglishについても朝学習や週末課題で活用する等、継続して学習に取り組むことの意義をしっかりと伝えていきたい。</p> <p>【2年】 教科では、スタディサプリEnglishの活用による英語力の向上を、学年では7月実施の到達度テスト対策や年度末等の学習教材として、生徒の学力に応じた動画付き課題を配信し、学力の向上を図っている。</p> <p>【3年】 朝学習や教科・科目ごとの課題において、ICT教育支援サービスを活用しており、こうした取組が奏功し、入試に向けて個々が必要な科目・分野を判断し、自主的に学習する生徒が増加しつつある。</p>	<p>【満足度指標】(生徒)</p> <p>ICT教育支援サービスを活用することや、朝学習や課題に取り組むことで、自らの学力を高めることができた(aよく+bやや)と考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
		②	副校長 教頭	<p>定時退校日の毎月2回の設定、採点省力化ソフトの利用やGoogleフォームを利用したアンケート集計等の積極的導入による業務負担軽減に向けたICTの活用により、長時間勤務者はやや減少してきてはいるが、繁忙期の時間外勤務の長時間化は改善されてはいない。県教委産業医による長時間勤務者に対する面接指導の実施等も教員の意識改革には役だってはいるが引き続き業務改善や業務の偏りの是正等に取り組み、多忙化改善につなげていきたい。</p>	<p>【成果指標】(教員)</p> <p>時間外勤務が80時間を超える教職員が0人になる。</p>	<p>時間外勤務が80時間を超える教員の月平均の人数が</p> <p>A 0人 B 2人未満 C 3人未満 D 3人以上</p>	CまたはDの場合は、改善策を検討する。

4	部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	①	PTA活動等への保護者の積極的な参加を促し、本校の教育活動をバックアップしていただく。	総務課	3回以上来校または職員とのやりとりをされている保護者が55.4%であり、ほぼコロナ前の状態に戻っている。明倫祭や教育ウィークの授業参観、発表会などへの来校数の増加によるものと分析される。今後も保護者と教職員が情報を共有する機会を積み重ね、本校の教育活動を理解、協力していただくことで、連携の強化に努めたい。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校の教育方針や行事等に関心を持ち、協力・参加した。	A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
		②	本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	各課・学年の行事や部活動について毎日の更新ができるよう呼び掛けている。学年だよりをホームページ掲載したり、教職員リレーブログの掲載の継続等の多方面にわたる記事の投稿により、前年度比で数倍のアクセス数となっており、今後も掲載内容についてPTAの意見等を伺いながら工夫していくことで、本校への理解の深化に努めたい。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報を集約し、速やかにホームページ上に掲載した。	A 80,000以上 B 70,000以上 C 60,000以上 D 60,000未満	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
		③	部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	生徒課	学校生活における部活動加入の利点を強調する等の取組により、1年生の入部を任意としたにもかかわらず、約8割の生徒が部活動に加入している。その一方で、途中退部する生徒が増加しているため、それぞれの活動を通じて、充実感・達成感を感じていけるよう、工夫していく必要がある。	【成果指標】(生徒) 部活動に加入し、活発に活動した。	A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。
		④	生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得ることができる取組を推進する。	生徒課	積極的に地域の行事に参加している委員会・部がある一方、校内の委員会活動は活発ではないのが現状である。生徒・教員ともに学習や部活動等によって時間を捻出することが難しい状況にはあるが、委員会活動の意義を説くことにより、活動の活性化を促していただきたい。	【満足度指標】(生徒) 委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒(aよく+bやや)の割合が	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

5 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	自ら進んで挨拶をしていると答える生徒の割合は多いが、教員や保護者からは異なる意見が少なくないため、挨拶やコミュニケーションをとのことの意義を説き、積極的に挨拶することができる生徒を育成していきたい。	【努力指標】(生徒) 登校時や校内で出会った人に対して、積極的にしっかりと声を出して挨拶をする生徒が増える。	朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかりと声を出し挨拶できた(aよく+bやや)生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課 各学年	自らはしっかりと着用できていると感じている生徒の割合が多いが、制服の着こなしについては、多くの異なる見解・意見があり、最近は多くの学校において着こなしを多様化させている現状もあるため、教員間で共通理解をもって指導できるよう努めていきたい。	【努力指標】(生徒) 規律を遵守し、自ら身なりを整える生徒が増える。	制服を意識的に正しく整えている(aよく+bやや)生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	自転車事故報告数は減少しているが、一般の方からの苦情を受ける現状は変わってはいない。11月には道路交通法の改正もあったため、自分だけではなく他者の命を守るためにも交通ルールを遵守することの意義を説き、継続した指導を行っていきたい。	【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えた。	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している(aよく+bやや)生徒の割合が A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	清掃を中心に部によるボランティア活動に取り組んでいるが、1・2年生のボランティア意識が低調であるため、今後は、身近な地域にとどまらず、広く社会貢献に対する意識の向上につながる取組を実践していきたい。	【成果指標】(生徒) ボランティア活動を通して地域貢献できていることを感じたり、積極的に活動に取り組んだ。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒(aよく+bやや)の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	ホームや部活動を居場所と考え、学校生活が充実していると考える生徒が例年以上に多い。今後も学年ごとに学校生活の充実について継続した取組を行っていきたい。	【成果指標】(生徒) 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。	学校生活が楽しいと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめ対応に関する連携について、やや現状を問題視する意見があるため、学年・生徒課・相談室の連絡体制等の基本を見直す必要がある。人間関係の変化の察知は教員側に余裕と心構えが必要であるため、関連する研修のあり方を再考する等、新規の取組について模索していきたい。	【努力指標】(教員) 各種調査や情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかりと把握し適切な対処をしている。	いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたのアンケートをとり、あてはまるの割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑦ 定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。	保健環境課	開校から続いた全校一斉清掃から当番制(交代制)の清掃に変更した影響もあり、1年で環境美化に対する意識の低下が看取された。一方で2・3年ではかえって責任感が強まったのか、清掃に真剣に取り組む生徒の割合が増加しているため、日々の実践によって環境美化を意識する生徒の育成に努めていきたい。	【成果指標】(生徒) 愛校心と環境美化意識を持ち清掃に取り組んでいる。	環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書委員による、図書便り・書籍紹介等の作成・発行等の図書案内の取組や一斉読書指導によって、読書の習慣化を促すとともに、探究活動等においても図書室を活用していく。	図書室	月ごとでは昨年を上回る貸出数があるが、平均冊数は下回っている。今後は、これまで同様の広報活動に加え、学習センター・情報センターとしての役割も充実できるようにし、書籍の貸出だけでなく、総合的探究のための調査や学習での利用も念頭に資料を整え、生徒の要望に応えていきたい。	【成果指標】(生徒) 1学期は新入生ガイダンス、総体総文時一斉読書、2学期は新人大会時の一斉読書で1,2年生の読書が増えた。3年生は受験用に読書した。	生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 5冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。

6	生徒の健康保持や安全確保に関する意識を高め、危機管理体制を構築していく。	① 健康・安全・防災への意識を持ち、危機に際して自ら判断し、行動できる生徒を育成する。	総務課 各学年	近年の気象状況の変化、能登半島地震の報道や国・県を挙げて取り組まれている防災体制の強化キャンペーンを受け、生徒・教員はある程度、環境要因による健康リスクや防災意識を有するものと思われるが、有事の際に、より効果的な行動をとことができるように、保健衛生教育や防災教育を充実させ、危機管理体制を構築していく。	【努力指標】(生徒) 健康・安全・防災への意識を高め、危機に際して、自ら判断し、行動できるようにする。	健康・安全・防災への意識を高める取組を行っている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 危機管理意識を高め、不測の事態においても適切に対応できる組織体制を構築する。	副校长 教頭			【努力指標】(教員) 日頃から危機管理意識を持ち、不測の事態においても適切に対応できる実践力を身につける。	危機管理意識を高め、不測の事態に対応する知識・技能を高める取組を行っている教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。